

# 第3回 旧豊田貯水池利活用懇談会資料



郡山市は「SDGs未来都市」として持続可能な開発目標の達成に向けた取り組みを推進しています。

## 目次

1. これまでの経緯	P 1
2. 基本方針	P 2
2. 1 コンセプト	P 2
2. 2 実現化方針	P 3
3. 利活用イメージ	P 5

# 1. これまでの経緯

## 背景

安積開拓・安積疏水開削の歴史	豊田貯水池の歴史	SDGs
今日の郡山の発展の礎となった、安積開拓・安積疏水開削の歴史	貯水池としての飲料水の歴史	郡山市はSDGs未来都市に選定され「全世代健康都市圏」創造事業を推進中

## 目的

今日の郡山の礎となる歴史やSDGsの考えを踏まえて、今後の旧豊田貯水池の利活用について懇談会にて検討し、懇談会意見を参考に、利活用方針案を策定する

## 懇談会委員意見

意見	対応方針
・今あるものを残すべきところは残す（歴史重視）	・歴史的遺構の保存
・定期的にここに通う仕掛けもプランニングの中に	・市民が主体となり持続可能な管理運用方法
・新しい時代に新しい機能を持たせられるストック	・将来のストックとしての役割
・動線を整理し、誰もが使えるように	・動線の検討
・ゲリラ豪雨レベルの雨を想定した水害対策	・グリーンインフラの導入で対応 ・市全体としては既存の雨水計画で対応
・何かを新たに作るというよりも、自然を活かして何かできないか	・グリーンインフラの積極的な導入
・市中心部で自然を感じることができるよう、水辺エリアはB案、C案のような自然な水辺に	・全体として人工的ではないものに
・グリーンインフラで降った雨の敷地内貯留と雨水利用	・敷地内貯留と雨水利用
・今回の対象地における雨水浸透・雨水（一時）貯留の考え方には以下の3つがある。1は既に合意済み。2～3の実現可能性も検討する。 1. 敷地内に降った雨水を浸透・貯留させる 2. 街区内に降った雨水を浸透・貯留させる 3. 周辺市街地に降った雨水を浸透・貯留させる	1→多目的広場をオンサイト調整池として、敷地内の雨水を貯留する 2→流入調査必要（今後の課題） 3→せせらぎこみちからの導水（今後の課題） ※オンサイト以上になると土地利用限定される
・桜堤・せせらぎこみちの緑陰をつなげたグリーントラベルルート	・東西を緑陰でつなぐグリーントラベルルート
・バリアフリー/ユニバーサルデザイン(歩行者、ベビーカー、車いす)	・バリアフリー/ユニバーサルデザインの導入
・自転車の通行も可能な幅員やレーンの設定・舗装等	・自転車歩行者道（グリーントラベルルート）
・ランドスケープ的に、低水の場合も高水の場合も美しいデザイン	・低水時、高水時の検討
・水辺エリアを水田を含めて連続的にデザインすることで、自然体験や環境学習、地域理解を深めるエリアに	・水田・ヨシ・水辺等を一体的に整備し、自然体験・環境学習の場
・世代間交流は全体を通じて実現できる（世代間交流スペース不要）	・体験エリアを設けることで世代間交流を図る
・周辺施設の駐車場を利用を促す「歩きたくなる」ルートの整備	・グリーントラベルルートで東西をつなぐ
・動線は分ける（築堤上は自転車やジョギングなどの通過ルート）	・グリーントラベルルートと別に園路を配置
・日本遺産としての安積疏水の歴史を重視	・歴史を体感できる地形の再現と体験
・郡山の大きな環境構造、地形や水系の構造を再現 その中に利活用面を、どう織り込んでいけるかがポイント	・郡山の地形や水系の構造の再現 ・市民参加でフロンティアスピリットを体現
・水質浄化機能の導入と水の循環利用（レインガーデンに、水の浄化をさせ、集められる水の量を試算して、さらに水源として使う）	・水質浄化機能の導入 ・水の循環利用
・子どもたちにとって、実体験は非常に大事	・自然体験学習の場、自然の遊び場
・生物のいる自然を準備したい ハコモノを整備しない	・生物多様性に配慮した自然主体のデザイン
・誰もが利用できるオープンなシェアスペース	・オープンスペース・多様な主体の参画

## 第二回懇談会での評価

A案（体験重視）	B案（保全重視）	C案（歴史重視）	3案共通
○考えられた動線 ○体験・交流重視 ○郡山の地形の再現 ▲作りこみすぎ ▲中央グリーントラベルルート	○将来のストック ○猪苗代湖の再現 ▲ヨシ全面は避難場所として不適	○安積開拓・安積疏水開削の歴史を重視 ○郡山の地形の再現 ▲動線考慮すべき	○グリーントラベルルートで東西をつなぐ ○敷地内貯留（敷地内に雨水を一時的に貯留し、再利用）

## 最終案への反映 （各案の残すべき機能）

A案（体験重視）	B案（保全重視）	C案（歴史重視）	3案共通
・体験活動 ・交流機能 ・動線	・将来のストック	・C案をベースに ・歴史重視 ・地形の再現	・グリーントラベルルート ・敷地内貯留

新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性

気候変動による豪雨災害の増加に対する「防災・減災」の視点の必要性

## 最終案

【コンセプト】  
みんなで育てる 未来へ受け継ぐ 郡山のフロンティアスピリット  
～ 全ての世代が安心・安全で元気にすごせる みどりのまち SDGs体感未来都市 ～

【目指す姿】 災害に柔軟に 対応できる みどりの空間	歴史を体感する みどりの空間	多様な生物の 息づく みどりの空間	未来へ受け継ぐ 学びあふれる みどりの空間	みんなの 健康を育む みどりの空間
【実現化方針】 水害対策	郡山の地勢の再現	水質浄化・再利用	体験学習の場	来たくなる場所
災害時の避難場所	郡山の歴史の再現	緑陰の整備	環境学習の場	歩きたくなるみち
防災学習拠点	郡山の歴史の体験	生物多様性の保全	自然体験遊びの場	未来の変化に対応
【導入機能】 レインガーデン、 多目的広場、水田、 畑、池 ※敷地全体として レインガーデンの 考え方を採り入れ、 敷地全体で雨水の 貯留・流出抑制を 行います。	築山、池、水田、 畑、草地、小川、 水路	ヨシ原、沈砂池、 水質浄化施設、樹 木、草地、緑道 （自転車歩行者 道）、水路、水田、 畑、小川、水生植 物	水田、畑、池、水 路、ヨシ原、草地、 築山、樹木、 作業小屋、体験プ ログラム、市民活 動拠点	多目的広場、水田、 畑、植樹エリア、 緑道（自転車歩行 者道）、葉草園、 市民活動拠点

※グリーントラベルルートを緑道（自転車歩行者道）と表記の仕方を変更しました。

## 2. 基本方針(コンセプト)

### 2. 1. コンセプト

これまでの検討を踏まえ、旧豊田貯水池利活用方針コンセプトを以下のように示します。

#### 【コンセプト】

#### みんなで育てる 未来へ受け継ぐ 郡山のフロンティアスピリット（開拓者精神）

～ 全ての世代が 安心・安全で 元気に過ごせるみどりのまち SDG s 体感未来都市～

かつて、郡山は、水利が悪い土地でした。奥羽山脈の向こうに水をたたえる猪苗代湖は、西側へのみ流れ、東側の安積原野には流れず、人々は水を巡って争っていました。しかし、明治になり「猪苗代湖の水を安積原野へ」という先人の強い思いが、「安積開拓・安積疏水開さく事業」という二大事業を興しました。この事業では、最新の技術・ヒト・モノが集められ、郡山を更り多き大地へと変貌させました。さらに、開拓当初、開成社の人々の植えた桜の苗木は、現在では、開成山公園の土手一帯を覆いつくし、郡山のシンボリックな場所となっています。「私たちの代では小さな苗木でもやがて大樹となり、美しい花は人々の心を和ませるであろう」という開拓者たちの未来を想う心が今に受け継がれている証です。

この、多様性を受け入れ調和していく精神、そして、未来を想う心は、昨今の水災を含め、幾多の困難を乗り越え、過去から現在まで脈々と受け継がれており、これから先の未来へ受け継いでいくべきフロンティアスピリット（開拓者精神）です。そして、その誇り高き開拓者精神を持った市民一人ひとりが、この場所に様々な形で関わりながら、この場所を未来へ受け継いでほしい、育ててほしいという願いが込められています。

郡山のフロンティアスピリットを結集して、誰もが安心安全で快適に暮らせるまちを作り、SDG s 体感未来都市を実現するための、全ての世代の方が健康で過ごせるみどりの空間を目指します。



写真出典：郡山市観光協会HP

#### 【目指す姿】

##### ①災害に柔軟に対応できる みどりの空間

現在有している雨水貯留能力を最低限維持しながら、自然の持つ洪水抑制機能を最大限に活かすグリーンインフラの取り組みを組み合わせ、近年の気候変動により増加する災害に対して、柔軟に対応できるみどりの空間を目指します。

防災・減災  
リスクマネジメント

みどり・環境

##### ②歴史を体感する みどりの空間

郡山の礎となった安積開拓・安積疏水開さくの歴史や、フロンティアスピリット（開拓者精神）を誰もが体感できる水辺とみどりの空間を未来へ受け継ぎ守り育てていきます。

歴史・文化

みどり・環境

##### ③多様な生物の息づく みどりの空間

敷地全体が大きなビオトープとなるような、多様な生物の息づくみどりの空間、全ての世代の人々が、まちなかで多様な自然に触れ合えるみどりの空間を目指します。

みどり・環境

##### ④未来へ受け継ぐ 学びあふれる みどりの空間

郡山の未来を担う子どもたちを中心とした様々な人々のための、多様で豊かな学びあふれる空間を目指します。体験学習や環境学習・防災学習・自然遊び等を通して、生きる力を育み、未来へ受け継いでいきます。

交流・子ども

みどり・環境

##### ⑤みんなの健康を育む みどりの空間

全ての世代が健康で安心して過ごせるみどりの空間、未来の変化に対応できる柔軟性のある空間を目指し、「歴史と緑の生活文化軸」の形成の推進を図ります。

まちづくり

交流・健康

## 2. 基本方針(実現化方針)

### 2. 2. 実現化方針

#### ①災害に柔軟に対応できる みどりの空間

##### ●実現化方針①-1 グリーンインフラで水害対策

- 自然の洪水抑制機能を持つみどりを利用して、敷地内に降った雨は、敷地内のオープンスペースに貯留し、敷地外への雨水流出を抑制します。それにより、周辺及び下流域への水害対策となります。
- グリーンインフラを整備することで柔軟性のある水害対策を行います。

【導入機能】広場、レインガーデン(雨水浸透型花壇)

※敷地全体としてレインガーデンの考え方を採り入れ、敷地全体で雨水の貯留・流出抑制を行います。

##### ●実現化方針①-2 災害時の避難場所

- 災害時に、一時避難者の受け入れを行う広場(オープンスペース)を整備し、開成山公園及び21世紀記念公園の防災機能を補完する。テント村の設置や仮設住宅を想定します。

【導入機能】広場

##### ●実現化方針①-3 防災学習拠点

- 平常時に、広場を使って、体感型の防災学習イベントを定期的に行います。防災学習の機会を提供することで、市民の防災意識を高め、防災に備えます。

【導入機能】広場

【イメージ】

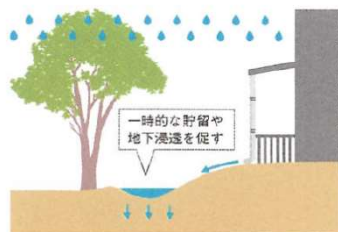


図18 ■ レインガーデンのイメージ



防災訓練②



一時避難②



自衛隊ベースキャンプ②

写真出典：①ロハス工学 日本大学工学部・ロハス工学編集委員会、日経BP社(編) ②国土交通省HP

#### ②歴史を体感する みどりの空間

##### ●実現化方針②-1 郡山の地勢の再現

- 山々に囲まれた郡山独自の地勢を体感できるように築山や池、水路を配置し、体感することで「自分たちのまち」への愛着を育みます。
- 猪苗代湖をイメージした池・安達太良山や阿武隈山地をイメージした築山を配置します。
- 郡山の盆地をイメージした広大な草地を配置します。

【導入機能】築山、池、草地

##### ●実現化方針②-2 郡山の歴史の再現

- 安積疏水の歴史的遺構である、貯水池内面の石張り・推定樹齢300年マツを遺し安積疏水流入水路に水を再び流します。
- 安積開拓で、猪苗代湖から水を引いてきたことにより、郡山の発展があったことを体感するために、安積開拓・安積疏水を想起させる池・水路・水田・畑を配置します。

【導入機能】築山、池、草地、水田、畑

##### ●実現化方針②-3 郡山の歴史の体験

- 昔ながらの農機具を用いて、歴史学習を含めた農業体験を行い、安積開拓を体験します。
- 水田、畑、水路等の整備を「地域住民参加型」で行うことで、地域活性化が図られます。また、自ら整備したことで愛着を持った維持管理が行われることが期待でき、更にコスト縮減になります。

【導入機能】築山、池、草地、水田、畑、

【運用方法】地域住民参加型

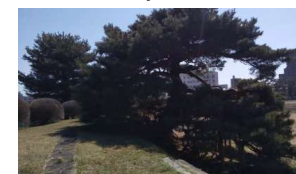
【イメージ】



水田



畑



推定樹齢300年マツ



地域住民参加型

写真出典：国土交通省HP

## 2. 基本方針(実現化方針)

### ③多様な生物の息づく みどりの空間

#### ●実現化方針③-1 水質浄化・再利用

- 雨水や農地からの排水は、ヨシ原を通して浄化を行い、沈砂池で泥を沈下させたのち水質浄化施設で更に浄化します。
  - 雨水を循環し、再利用できる持続可能な仕組みを構築します。
- 【導入機能】ヨシ原、沈砂池、水質浄化施設、雨水循環設備

#### ●実現化方針③-2 緑道・緑陰の整備

- 植生や水辺には周辺環境の気温を低下させる機能があります。気候変動による気温上昇対策として、緑道（自転車歩行者道）や緑陰を整備します。
- 【導入機能】樹木、草地、緑道（自転車歩行者道）、池、水路

#### ●実現化方針③-3 生物多様性の保全

- 草刈りの時期と方法を工夫し、生き物にあふれた草地を整備します。
  - 郡山の在来種を多く採り入れ、郡山の生物や植物にとってより自然に近い生息地・生育地を設け、まちなかの生物多様性を保全する場を整備します。
- 【導入機能】樹木、草地、緑道（自転車歩行者道）、池、水路（小川）、水田、畑、ヨシ原、水生植物

【イメージ】



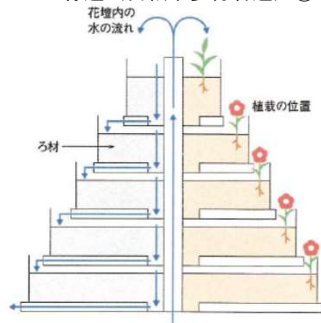
ヨシ原（現況写真）



図5 ロハスの花壇の様子と構造  
(資料:中野和典)



緑道（自転車歩行者道）①



写真出典：①国交省HP ②ロハス工学 日本大学工学部・ロハス工学編集委員会、日経BP社（編）

### ④未来へ受け継ぐ 学びあふれる みどりの空間

#### ●実現化方針④-1 体験学習の場

- 未来を担う子どもたちや様々な世代の人々が、本物の体験活動ができるよう、水田・畑・果樹園等を整備します。
  - 市内の農業関係者の協力を得ながら、定期的に体験学習を行えるような仕組みを整えます。
  - 整備した農地は、郡山市の主要産業である農業を、身近に感じられる場として活用します。
- 【導入機能】水田、畑、果樹園

#### ●実現化方針④-2 環境学習の場

- 敷地全体を多様な生き物が息づく場所として整備し、環境学習の場として活用します。
  - 池・水路・水田・畑・ヨシ原・草地、それぞれをビオトープの一部として考え、敷地全体で一つの大きなビオトープとして整備します。
  - 広場の草地については、手を入れすぎず、昆虫等の住処となるように整備します。
- 【導入機能】池、水路、水田、畑、ヨシ原、草地

#### ●実現化方針④-3 自然体験遊びの場

- 自ら考え、五感を使って自然を体験できる、自然の遊び場を整備し、生きる力を育むと共に、体全体を使って遊ぶことで、ストレス解消や肥満予防等になり、市民の健康づくりに活用します。
- 【導入機能】築山、樹木、草地

【イメージ】



農業体験



自然遊び



ビオトープ



ヨシ原（現況写真）

写真出典：国土交通省HP

## 2. 基本方針(実現化方針)

### ⑤みんなの健康を育む みどりの空間

- 実現化方針⑤-1 訪れたい場所
  - ・市民協働により植樹等を行うことで、「いつも訪れたい場所」を創造します。
  - ・多様な主体が参画できる、イベント広場を整備します。気軽に、自由に申し込んで利用できるような運用方法を検討します。【導入機能】イベント広場、水田、畑、植樹エリア、市民活動拠点
- 実現化方針⑤-2 歩きたいなるみち
  - ・開成山公園と中心市街地エリアを結ぶ位置に、「歩きたいなるみち」を作ること、賑わいの拠点を結ぶ軸としての空間を実現します。
  - ・歩く機会を増やし誰もが健康で生き生きと暮らせる「健康長寿社会」を構築します。
  - ・薬草園を整備し、薬草の効能を通して健康について学び、全世代の健康を実現します。【導入機能】緑道（自転車・歩行者道）、薬草園
- 実現化方針⑤-3 未来の変化に柔軟に対応
  - ・将来世代が新しい時代に新しい機能を持たせられるストックとなるよう、将来の課題に対応できる柔軟性を持たせたオープンスペースを確保しておきます。【導入機能】広場、草地

【イメージ】



植樹



緑道（自転車歩行者道）



イベント広場（祭り）



イベント広場（市民活動拠点）



イベント広場（ヨガ教室）

写真出典：国土交通省HP

## 3. 利活用イメージ

### 3.1. 導入機能案（土地利用）

旧豊田貯水池の利活用コンセプトを踏まえ、土地利用の方向性を決めました。その概要を以下に示します。

#### ① 多目的広場エリア

敷地の約半分を広場エリアとします。平常時は、イベント活動や防災学習等多目的に使える広場として利用します。地震等の災害時には、一時避難場所として利用し、豪雨時には、オンサイト調整池として利用します。

#### ② 水田エリア

安積開拓をイメージした水田を配置します。市内の農業関係者の協力を得ながら体験学習を行います。

#### ③ 畑エリア

安積開拓をイメージした畑を配置します。

#### ④ 薬草園エリア

薬草園を配置します。

#### ⑤ 池①エリア

猪苗代湖をイメージした池を配置します。安積排水をイメージした水路を池から引いてきます。（3.4.水系の考え方で説明）

#### ⑥ 池②エリア

農地からの排水や広場からの雨水をヨシ原で水質浄化し、池②で集水します。沈砂池・調整池として活用します。（3.4.水系の考え方で説明）

#### ⑦ 花見の丘エリア

奥羽山脈、安達太良山という郡山の地勢を模した築山を配置します。

#### ⑧ 絆の丘エリア

郡山市を含む16市町村で構成されるこおりやま広域圏の全ての市町村の花と木を植え、こおりやま広域圏の絆を深めます。（3.5.植栽の考え方で説明）。

#### ⑨ 駐車場エリア

旧豊田浄水場施設跡地（上下水道局）については、近隣公共施設との相互利用を見据え、平面駐車場を配置します。

本利活用イメージは、当該地の土地利用の方向性や備えるべき主な機能の概略を示すものであり、詳細な規模や設置場所、デザイン等は今後検討する。

# 3. 利活用イメージ

この利活用方針（案）は、旧豊田貯水池の今後の大きな方向性を示すものであり、具体的な計画・設計ではなく、あくまでもイメージです。

コンセプト

## みんなで育てる 未来へ受け継ぐ 郡山のフロンティアスピリット（開拓者精神）

～ 全ての世代が 安心・安全で 元気にすごせる みどりのまち SDGs 体感未来都市 ～

### 水田エリア

安積開拓をイメージした水田を配置します。市内の農業関係者の協力を得ながら体験学習を行います。



### 緑道(自転車歩行者道)

開成山公園と中心市街地をつなぐ緑道（自転車歩行者道）を配置します。



### 多目的広場エリア

敷地の約半分を広場エリアとし、平常時はイベント活動や防災学習等多目的に使える広場として利用します。地震等の災害時には、一時避難場所として利用し、豪雨時には、広場に雨水を貯留することにより水害対策となります。



【平常時】 イベント活動（ヨガ教室）



【平常時】 防災学習(かまどベンチ)

### 畑エリア

安積開拓をイメージした畑を配置します。



### 池①エリア

猪苗代湖をイメージした池を配置します。安積疏水をイメージした水路を池から引いてきます。

### 池②エリア

農地からの排水や広場からの雨水をヨシ原で水質浄化し、池②で集水します。沈砂池・調整池として活用します。

### 花見の丘エリア

奥羽山脈、安達太良山という郡山の地勢を模した築山を配置します。

### 絆の丘エリア

郡山市を含む16市町村で構成されるこおりやま広域圏の全ての市町村の花と木を植え、こおりやま広域圏の絆を深めます。

### 歴史的遺構

安積開拓・安積疏水開さくの歴史を伝える、貯水池石張りや流入水路、推定樹齢300年マツを保存します。

### 駐車場エリア

旧豊田浄水場施設跡地（上下水道局）については、近隣公共施設と相互利用を見据え平面駐車場を配置します。



【平常時】 イベント活動



【平常時】 イベント活動



市民協働（植樹）



【非常時】 一時避難場所

### 市民を主体とした持続可能な運営方法

かつての開成社のように、一人ひとりの市民が、フロンティアスピリット（開拓者精神）を持ち、様々な形で関わることのできる、市民や企業が積極的に参加して育てて作ることのできる、市民を主体とした持続可能な運営方法を検討します。



# 3. 利活用イメージ

## 3.2. 造成の考え方

郡山の地勢を再現するように、築山や谷筋を造成します。  
 猪苗代湖をイメージした池①を造成し、湖面を高くします。池②は、農地排水や雨水を集水できるよう、掘り下げて造成します。歴史的遺構の安積疏水流入水路、貯水池内面石張り、推定樹齢300年マツについては、保存します。

## 3.3. 動線の考え方

郡山市都市計画マスタープランにおける「歴史と緑の生活文化軸」としての位置づけを実現するために、開成山公園と商業地を東西に結ぶ、緑道（自転車・歩行者道）を敷地の北側と南側に通します。緑道（自転車・歩行者道）とは別に、公園内（谷筋や芝生広場）を周遊するような園路をまわします。バリアフリーに配慮し、なだらかなスロープで構成します。

## 3.4. 水系の考え方

猪苗代湖の水源をイメージした水位の高いため池を作り、上下二か所から取水します。上から取水する水路は、自然風の小川とし、下から取水する水路は、安積疏水をイメージした水路とし、農地の水源になります。  
 水路の水は多目的広場からの雨水と共にヨシ原で浄化され、池②に集水されます。池②は、調整池・沈砂池の役割を果たし、池①から池②に水を戻し入れ、循環させ、持続可能な仕組みを構築します。

## 3.5. 植栽の考え方

こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の中核都市として、域内の市町村の連携を図るために、築山を中心に、こおりやま広域圏の花・木を植えます。現況の樹木はなるべく残し、サクラ（ヤマザクラ等）やマツを補植します。

こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の花鳥木

	花	木	鳥
郡山市	ハナカツミ	ヤマザクラ	カッコウ
須賀川市	ポタン	アカマツ	カウセミ
二本松市	キク	サクラ	ウグイス
田村市	ツツジ	ナラ	ウグイス
本宮市	ポタン	マユミ	ウグイス
大玉村	サクラ	マツ	キジ
鏡石町	アヤメ	シダレザクラ	(未制定)
天栄村	リンドウ	マツ・エンジュ	ウグイス
猪苗代町	サギソウ	ナナカマド	ハクチョウ
石川町	サクラ	スギ	ウグイス
玉川村	ヤマザクラ	アカマツ	ヤマバト
平田村	タンポポ	アカマツ	ヤマバト
浅川町	サギソウ	アカマツ	オナガ
古殿町	ヤマユリ	スギ	キジ
三春町	マツナミ	シダレザクラ	ウグイス
小野町	ツツジ	スギ	カッコウ

## 3.6. 防災の考え方

東日本大震災及び令和元年東日本台風災害等の経験から、防災機能の強化が求められています。

防災機能のうち、気候変動による豪雨対策として、池②には調整池機能を持たせ、多目的広場には、オンサイト調整池機能を持たせます。また、水田部分に貯水することにより、水田に洪水抑制機能を持たせることも可能です。

防災機能のうち、地震時の対策として、多目的広場に、一時避難場所の機能を持たせます。短期的にはテント村の設置、避難が長期間に長引く場合は仮設住宅の建設用地としての利用を想定し、開成山公園、21世紀記念公園の防災機能を補完します。

## 3.7. 施設（休憩施設、活動拠点）の考え方

敷地面積が広いいため、トイレやベンチ等の休憩施設は使いやすいように各地に配置します。

農地で収穫した米や野菜等を調理・飲食できる場所を設けます。

また、多目的広場を利用した防災学習やイベント等の活動拠点を設けます。

## 3.8. 管理運営の考え方

かつての開成社のように、一人ひとりの市民が、フロンティアスピリット（開拓者精神）を持ち、様々な形でかかわることのできる、市民や企業が積極的に参加して育てて作ることのできる、市民を主体とした持続可能な運営方法を検討します。